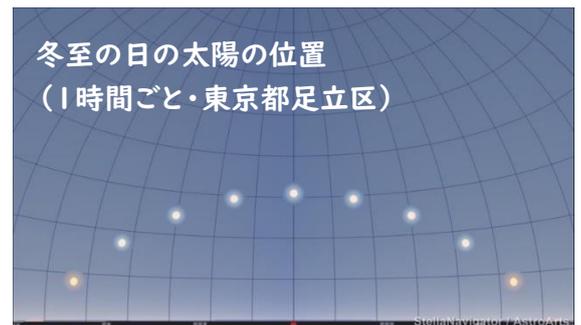


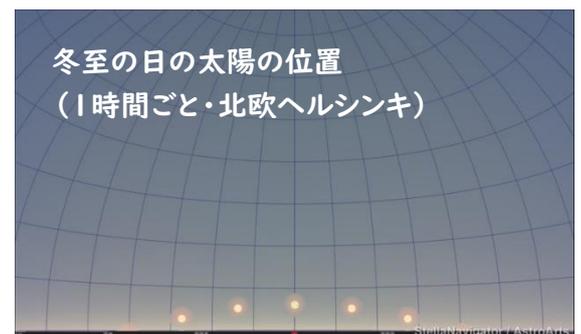
とうじ 冬至の日に思うこと

2020年12月21日は冬至です。北半球では冬至の頃から寒さがいっそう増して冬本番となります。日本では、冬至の風習として、ゆず湯に入って温まりましょうとか、カボチャを食べて栄養をつけましょうなどと、風邪対策と結びつくものが見られますね。

冬至の日の太陽は、1年のうちで太陽の南中高度（真南にあるときの高さ）が最も低く、また昼の時間が最も短くなります。東京では、冬至の頃は天気の良い日も多く、高さも地平線から31度程まで上りますので、太陽が弱ったという感覚はあまりありません。ところが、北欧（ヨーロッパの北の方）では、図のように正午近くでも、地平線からわずか6度（手を伸ばして見る自分のこぶし ☹ の半分ほど）程度しか上がりません。これはここで暮らす人にとっては大きな問題です。昔の人にとっては、このまま太陽が上らなくなるのではないかと不安だったことでしょう。



冬至の日の太陽の位置
(1時間ごと・東京都足立区)



冬至の日の太陽の位置
(1時間ごと・北欧ヘルシンキ)

でも、冬至を境に、太陽はじょじょに高く上るようになります。だから、冬至は太陽の復活を祝うお祭でもありました。クリスマスが冬至に近い日であることも、このこととは無関係ではないようです。ギャラクシティで開講している「星のソムリエ講座」でも、世界中の人々の冬至のとらえ方について学んでいますが、なんとなく共通点があるそうです。